

ふらのの皮フ科

平成29年7月12日発行
ふらの皮フ科
病院誌発行委員会

虫による皮膚疾患

虫が原因の皮膚病の中で主なものを紹介します。

はじめに

虫が原因の皮膚病で一般的なものとして、蚊に刺されたあとが赤くなつて痒くなる虫刺されがあります。蚊は吸血するまえに唾液を皮膚に注入し血を吸いやすくなるのですが、この唾液に対するアレルギー反応でかゆくなります。毒でなくアレルギー反応のため刺された後の症状は人それぞれです。

虫による皮膚疾患はこのような吸血のために刺したり、咬んだりすることによる病気以外に、シラミや疥癬のように人に寄生して障害を起こすもの、マダニによるライム病のように病気の媒介が問題になるもの、体液や毒針による反応が問題になるものなどさまざまあります。

スズメバチ

スズメバチのハチ毒には多くの発痛物質が含まれているため、刺された瞬間激

しい痛みを生じます。刺されて1-2日後に刺された部位に紅斑、腫脹を生じます。スズメバチは黒い色に向かう性質があるのと匂いに刺激されることがあるため、山に行くときには香料を含むものは身につけないようにしましょう。虫除けスプレーはハチには無効です。

スズメバチは局所の病気以外に、2回目以降に刺されると発症することがある即時型の反応があり、これは刺された直後から15分以内に全身に紅斑、膨疹を認め、ときには腹痛、嘔吐、呼吸困難など全身症状を生じ、重症の場合は死に至ることもあります。

エピペン

スズメバチに刺された人全員が、全身症状を起こすわけではありませんが、短時間に複数回刺されたり、刺された回数が多くなると重篤な症状を起こすことがあります。刺される可能性のある方

は、症状を改善させるエピペンの注射薬、エピペンを所持しておくことが大事です。当院でも処方できますが、使い方の動画をみて理解していただいでから処方します。

ダニ

ダニにはたくさん種類がいて、①人を吸血し皮膚にかゆみを生じさせるもの。イエダニ、トリサンダニなどでネズミや鳥に寄生し、寄生している生物を駆除しないと退治できません。②人に寄生するもの。ヒゼンダニは人に寄生し全身が痒くなる疥癬とよばれる病気をおこします。③アレルギーをおこすもの。コナヒョウダニ、ヤケヒョウダニは吸血しませんが、このダニの死骸やフン、脱皮した後の殻などがアレルギーとなり、様々なアレルギーを引き起こします。アレルギー検査ではこのダニに対する検査を行います。したがってイエダニに刺されたか血液検査ではわかりません。④病気を媒介するもの。北海道にいるシニルツエマダニにはライム病を引き起こす病原体を持つて

いることがあります。皮膚についているダニをとると

きに体をつかむと中の病原体が体内に入ることあります。ダニが吸血するとき口がセメント物質で皮膚に固定されるため、無理に取ると頭が皮膚に残ってしまうことがあります。

シラミ

人に害を及ぼすシラミ(虱)はケジラミ、アタマジラミ、コロモジラミがいます。ケジラミは性行為で感染することが多いです。コロモジラミは衛生状態が悪い方に蔓延することが多いです。アタマジラミは清潔にしているても感染することがあります。同じ寝具や帽子を使って感染することがあります。治療には駆除用シャンプーやパウダーが売られてますが、殺虫剤抵抗性のシラミができており、細かな櫛で物理的に取るのが大事です。

アリ

今年5月26日に兵庫県尼崎市においてヒアリ(火蟻)が発見されました。このアリのもつアルカロイド系の毒によって刺されると非常に激しい痛みを覚え、皮膚が水疱状に腫れることがあ

ります。さらに毒に対してアレルギー反応を引き起こし命の危険があるアナフィラキシーショックを引き起こすことがあります。ヒアリ毒はハチ毒と共通の成分が含まれているため、ヒアリに刺された経験がなくてもハチ毒にアレルギーを持つ方は注意が必要です。

受付時間

当院の診療時間は月火木金は午前9：00～12：00まで、午後は14：00～17：00まで、土曜日は午前9：00～12：00までです。水曜日、日曜日、祝日は休診日です。受付に臨時休診日を掲示しています。またホームページ(hifuka.hokkaido.jp)にも休診日を載せておりますので、そちらも参考にして下さい。

